



# 広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.  
2021

例会日・木曜日 12:30~13:30  
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島  
会 長 田中 健志  
幹 事 金本 善行

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78  
リーガロイヤルホテル広島13F  
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870  
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp  
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ Building Communities Bridging Continents

「地域を育み、大陸をつなぐ」

本年度会長テーマ

「ロータリーを楽しもう」

## 「識 字 率 向 上 月 間」

2011年 3 月 17 日 第1997回例会

### ◆ 会長時間 ◆

田中会長



まずはおめでたいニュースからお話します。当クラブは3月7日に創立41周年を迎えました。本日は園尾恵三会員の連続41年間連続100%出席に対する表彰の日です。素晴らしい記録だと思います。誠におめでとうございます。

さて3月11日に発生した東北関東大震災に対してですが、テレビ報道を見る度に大自然の中では本当に人間は無力であると感じます。私はたまたま地震の時に、東京駅近くの丸の内のビルでの会議中でした。幸い丸の内界隈の建物は殆どが耐震構造になっており、大した被害はありませんでしたが、時間も長く、恐怖を感じるほどの激しい揺れでした。交通機関が全て止まり、少しずつ運行再開をし始めた21時過ぎまでなすすべもなく、喫茶店や食堂で過ごしました。その間携帯電話は不通となり、公衆電話には長い行列ができていました。今回再認識いたしました。携帯電話の普及に伴い公衆電話が本当に少なくなっています。そして再開した一部の交通機関に対し皆が殺到し、乗車するまでかなりの時間を要しました。大都会の弱点ですね。

本震災をご心配くださって、台南RC会長及び数人の会員から、シカゴRCの原島さんからメールをいただいております。

本日は理事会の報告が2件ございます。

一つはこの度の大震災についてです。数人の会員からも支援についてお電話を頂きましたが、ガバナー事務所からも、地区としてこれまで以上の義捐金を検討されています。在広13クラブの臨時合同幹事会でもそれに対し、本日午後2時30分から当ホテルで会議があります。会員それぞれ個人や会社でも義捐金の拠出を検討されているとは存じますが、先刻の臨時理事会でクラブとして一人当たり1万円とさせて頂くことに決定しました。それに端数をスマイルボックスから足して、クラブとして100万円の義援金といたします。

2つ目は米山奨学生の張化さんについてです。現在広島市立大学博士過程で研究中ですが、博士論文の完成が半年長かかることになり、卒業が今年9月になりました。大学の指導教官からの推薦状もあり、理事会で審議のうえ米山奨学会に6カ月の延長を申請し受理されました。しかし延長期間の奨学金の半額42万円は当クラブ負担となります。恐れ入りますが、お一人当たり5000円のご負担をお願いします。

出費多端の折会員の皆様方にご負担をお掛けし申し訳ございませんが、ご協力のほどお願い申し上げます。尚、15,000円は4月会費とともに請求させていただきます。

最後に、IFWFRの1月号会報に弥山クラブについて井原会員が投稿されています。

☒ 東日本大震災の犠牲者を悼み黙祷

## ● 委員会報告

### 出席報告 新原委員

本 日 (3月17日・木曜日)

会員数 83名 出席者 71名

欠席者 12名 ご来客 5名

ご来賓 1名 ゲスト 0名

計 77名

前々回(3月3日・木曜日)

出席率 100%



### ※ 会報雑誌・広報委員会

藤原会員

ロータリーの友誌紹介

### ※ 次年度香川(基)幹事

例会終了後、4階「竹の間」において次年度第3回理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

### 祝 連続出席100% (8名)

|           |             |
|-----------|-------------|
| 園尾君 (41年) | 堀江君 (18年)   |
| 小橋君 (9年)  | 笹野君 (4年)    |
| 鮫島君 (2年)  | 松岡(輝)君 (1年) |
| 河本君 (1年)  | 浜田君 (1年)    |

## ● 臨時理事会議事録

日 時 2011年3月17日(木) 12時00分～12時15分

場 所 ANAクラウンプラザホテル広島 3階

### 審議事項

- ・ 東日本大震災被害への義援金の拠出について  
(全員一致で承認)

国際ロータリー第2710地区前田ガバナーより、強力な支援依頼が来ている。

当クラブでも出来る限りの支援を行い、結果を地区に報告する。

方法は、会員一人当たり1万円を4月会費で徴収し、残額をスマイルボックスから拠出し、併せて100万円とする。

送金の締め切りが3月30日の為、本会計から立て替えて支払う。

## ■ 卓 話



### 末期(まつご)と書 ～黄山谷の范滂傳～

広島文教女子大学 教授

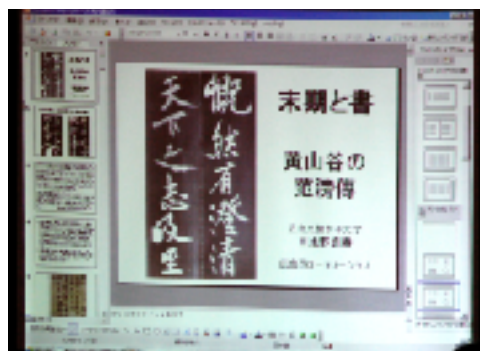
日比野 貞勝氏

### プロフィール

日比野貞勝(ひびのさだかつ) 1948(昭和23)年生

- \* 広島文教女子大学教授。
- \* 非常勤講師として、県立広島大学および福岡教育大学で「書道実技」「書道史」「書論・鑑賞」を担当。
- \* 中国地区大学書道学会会長。
- \* NHKの文化教室で「書道鑑賞講座」を主宰。
- \* 研究してきたことは、「中国の文人士大夫の書と書人」。最近では、(財)頼山陽史跡資料館で収蔵の書跡資料の整理・鑑識作業に携わりながら、江戸時代の書と書人のことも調査・発表。
- \* 主な揮毫作品 邇保姫神社の狛犬台座や灯籠、石柱などを揮毫。他に校歌・校訓碑・史跡碑・墓碑や社是などを揮毫。また、創作作品は同志とともに毎年春と秋に京都市美術館で展示発表。
- \* 師は塚田正受、巽幸彦、徐甲申…されど、書は独学

まつご  
「末期と書～黄山谷の范滂傳～」



「書は人なり」。この言葉が色濃く反映した時代の一つが宋時代であり、蘇東坡(1036～1101)とその弟子であり同志である黄山谷(1045～1105)、また米芾(1051～1107)はその開拓者・具現者といえる。北宋時代は新法党と旧法党との一大闘争の場となったが、蘇東坡と黄山谷はその波に翻弄され、投獄に流刑(蘇東坡は黃州～惠州～昌化軍へ。黄山谷は黔州～戎州～荊州～宣州へ)という波瀾

の後半生であった。しかし、蘇・黄はそれぞれにその配流生活の中で一層己が個性を発揮し、趣きの異なった詩風・書風を形成して、後世その作品を愛好し、その人品を思慕する者は枚挙に遑なしである。



黄山谷については、我が国においても蘇東坡と同じく、鎌倉・室町時代から江戸時代の学者や僧たちの間に親しまれてきた人物である。古刹などではとりわけ山谷の書と伝える遺品は少なくない（竹原、照蓮寺にもその法帖が蔵されている）。近いところでは高村光太郎や中野孝次なども絶賛し手習いもしている。山谷書の代表作は「…一夜の雨にぬれた寒々とした溪澗をながめて、いつになればへんざん貶竄の逆境をとかれて、諸友と舟遊することができるのであろうか」と詩句を結んだ松風閣詩(1102)であろう。山谷が東坡の死の翌年、黄州流謫中の東坡がしばしば游賞し心田を耕し詩賦を遺した処（武昌）に行き作ったものである。気象のゆうもん高い秀逸なこの詩・書は山谷の当時の憂悶の思いと、盟友蘇東坡の命をも生きんとしたに違いない心声・心画とが同化し横溢している。音声に乗せ、筆跡を辿る度、山谷の痛快な超俗の世界に酔いしれてゆくのを覚える。その他には、書贈張大同卷(1100)、伏波神祠詩卷(1101)、また草書卷の李太白憶旧遊詩卷などが著録され、優品として伝わっている。一筆一筆、筆跡を辿ってみるが、そのいずれも山谷の気韻・風格が傑出しており、自身の凡骨のほどを知らされる。

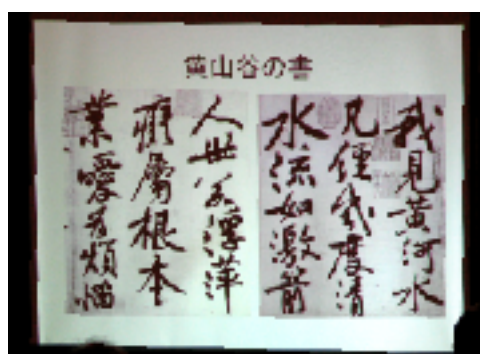
表題に記した范滂傳は拓本のみが伝わるもの、また山谷の詩文でもない。それ故なのか著録にも



法帖類にも載ることは少ないが、黄山谷という人物、また文人の末期を知る貴重な書跡と思量している。宋の詩人樓鑰ろうやくの跋によると。

山谷がその晩年にあたる崇寧4年(1105)廣西宣州に謫居していたとき、ある人から字を書いてくれと頼まれた。山谷はその人にどんな書がほしいのかと尋ねると、先生のお好きなものを書いて下さいといった。そこで山谷は范滂伝を書いてもいいことを漏らした。ある人が、南方にはその伝の載っている書物がありませんがどうしようかというと、山谷は平生この伝が大好きでよく読んでいたとあって、ついに暗礁あんくわいしているままにこれを書いた。巻の終るまでわずか二、三字を誤っただけであるという。

このとき書を頼んだある人というのは、余氏という人で、この地方の通判を務めていたという。余子壽というのがその子孫で、その真蹟を所蔵していた。これが後に趙汝愚に帰し、子の趙崇憲に伝わり、崇憲が嘉定5年(1212)江州の知事をしていたときに、これを郡齋において石に刻した。…



山谷は晩年、張旭、懷素の狂草を慕って、書の練磨につとめ、年ごとに向上してゆくことを希みその佳境に入ることにつとめたことは、折々の題跋に記している。この書「范滂傳」は最晩年にあたる崇寧4年の成ったもので、その年の9月には没している。将に末期の書である。廣西宣州という辺境にあって…この傳を書くときの心境はいかに切実であったのだろうか想像にあまりがある。

円熟の果ての意と筆が端々にほとばしり、刺さって止まない。…800年余の古人（范滂）に身み慄いするほどの畏れを覚えつつ、己が命を宿したのであろうか…

## ● 卓話予告

| 日時     | テーマ                      |
|--------|--------------------------|
| 4/7(木) | 会報雑誌・広報委員会担当<br>『会報について』 |